

避難所規模の違いがエネルギー・栄養素提供量に与える影響

原田萌香<sup>1,2</sup>、岡純<sup>1</sup>、笠岡(坪山)宜代<sup>2,3</sup>

<sup>1</sup>東京家政大学大学院 人間生活学専攻

<sup>2</sup>医薬基盤・健康・栄養研究所 国際災害栄養研究室

<sup>3</sup>日本栄養士会 JDA-DAT 運営委員会エビデンスチーム

【目的】東日本大震災から約 1 か月後の気仙沼市の避難所調査において、避難所規模が大きいほど、食事回数が少なかったことを我々は既に報告している(Tsuboyama-Kasaoka et al, 2014)が、食事の質に影響があったのかは不明である。そこで、避難所規模の違いが実際にエネルギー・栄養素提供量に影響を与えたのか検討し、今後の支援体制作りの一助とすることを目的とした。

【方法】東日本大震災における宮城県内沿岸部の全避難所を対象とした「避難所食事状況・栄養関連ニーズ調査 (調査主体：宮城県保健福祉部)」の結果を二次利用し、被災から約 1 か月後(n=332)、2 ヶ月後(n=241)、3 ヶ月後(n=49)それぞれの時点の結果を再解析した。解析対象は、避難者総数、食事提供回数、エネルギー・栄養素提供量に記載のあった避難所 (1 か月後：133 施設、2 ヶ月後：221 施設、3 ヶ月後：49 施設) とした。避難者総数は 3 分位により、避難所規模を大・中・小に分類した。エネルギー・栄養素提供量は、東日本大震災のあとに厚生労働省が公表した栄養参照量と比較し、栄養参照量を満たした避難所と満たさなかった避難所に分類した。

【結果】被災から約 1 か月後では、避難所規模が大きいほど、食事提供回数が少なかった。エネルギーにおいて、大規模避難所と小規模避難所では、中規模避難所と比較して、栄養参照量を満たした避難所が有意に少なかった。その他のたんぱく質、ビタミン(以下、V)B<sub>1</sub>、VB<sub>2</sub>、VC については差が認められなかった。約 2 ヶ月後では、避難所規模による食事回数への影響はなかったが、たんぱく質および VB<sub>2</sub> において、大規模避難所と小規模避難所では、中規模避難所と比較して、栄養参照量を満たした避難所が有意に少なかった。約 3 か月後では、食事回数およびエネルギー・たんぱく質・VB<sub>1</sub>・VB<sub>2</sub>・VC 全てにおいて避難所規模による差は認められなかった。

【結論】発災から約 1 か月～2 ヶ月の時点では、避難所規模が大きい避難所だけでなく、小さい避難所も栄養状態が悪化している可能性が示唆されたことから、今後は、避難所規模が大きい避難所に加え、小さい避難所にも支援が届くような支援体制作りが望まれる。